

第2回永青文庫セミナー

時習館100年の運営あれこれ

川口 恭子

1. 「温知録」について

宝暦の改革の一環として、藩校「時習館」が創設されたのはよく知られるところである。

藩の12部局のひとつである学校方では、その毎日の記録を残し、「年々覚帳」と名づけた1年のまとめの帳面を作成した。

宝暦4年(1754)から安政3年(1856)までの、約100年の記録を、安政3年(1856)5月から6月に掛けて整理したものが「温知録」である。体裁は26.0×19.2cm、墨付96丁の和綴の本である。

内容は、まず年号の下に職員の名前が書かれている。編纂に当たって、「役人帳」から書き抜いた当時の事務方職員名簿である。次いで、色々の記事が記録されている。

いまそれらの中から興味深いものをいくつか紹介してみよう。



温知録

2. 学校職員組織

- 1) 学校目附 文武の師範および諸生徒を監督する役目で、はじめは2人であったが、宝暦5年からは3人になった。
- 2) 士役 宝暦13年(1763)から1人任命。諸役人の中心となって会計出納などを監督する。はじめは軽輩の切米取であるが、後は御擬作^{あてがい}100石となる。
- 3) 横目 宝暦13年から3人。学校目附のもとにあって監察の補助をする。
- 4) 役人 はじめ2人。翌年から3人。天保8年(1837)から4人。会計を担当し、居寮生の賄いなどを取り扱う。普請・書物購入・文武芸の諸道具一切の面倒を見る。
- 5) 物書 はじめ1人。宝暦5年3人、後、寛政2年(1790)には8人、安政3年には10人。書類を扱い、図書の種類・管理・出納など。
- 6) 手伝 宝暦5年3人。天保5年には20人。諸用事の手伝、茶・煙草の世話など。
- 7) 荒仕子 人数不明、天保5年9人。居寮生の飯炊き、諸雑用。

3. 学校経費

- 1) 宝暦4年12月 30人扶持 (54石)
- 2) 宝暦13年10月 30人扶持と銀100枚
- 3) 安永3年8月 1割減
- 4) 享和3年2月 勝手方難渋に付き居寮差止め

5) 文化7年5月 居寮復活

4. 建物増築

- 1) 講堂 宝暦9年9月工事始まり、翌年6月竣工。天保2年30畳分増。
- 2) 習書齋 寛政元年増築。文政5年建増。 新習書齋 文政12年場所替え。
- 3) 文庫 文政4年新文庫建造。天保7年補修。
- 4) 句読齋 天保6年増築。
- 5) 居寮 天保8年増築
- 6) 天保12年現在 畳数965枚半 障子数299枚と35間分

5. 正月13日開講式の模様

- 1) 宝暦10年、学校20畳の間で儒官の講釈初めがあり、池辺平太郎が「大学」を講読、後、上の間に総教、両榭師範・士席以上は20畳の間、儒官は奥の間、その他も所定の所で御酒頂戴。
- 2) 宝暦11年からは、講堂で同上。
- 3) 毎年、説教が終わり、講堂・句読・習書に精を出した者は褒められた。後、音楽・管弦があった。出席者・御酒頂戴は同上。

6. 藩主の講堂御入り

- 1) 宝暦10年9月15日 南門より入御、講堂階下にて下乗。三淵志津摩・堀平太左衛門など出迎え、御居間に着座、南面せられる。儒官・両榭師範お目見え。
御帰りにも、学校役人以下、所定の所でお目見え。南門より還御。
- 2) 寛政4年12月 御供の御小姓頭初め、総御供の者へ、朝5時半（午前9時）から夕7時（午後4時）頃まで、茶瓶・火鉢などを出す。
当日は勿論、前日から総出で、朝6時（午前6時）から暮まで掃除を行うので、入御の節々、炭2俵・薪2束格別に渡される。

7. 居寮生について

- 1) 資格 成績優秀な者
- 2) 人数 宝暦13年 7～8人
安永6年 19人
享和3年 勝手向き難渋に付き差止め、自炊の居寮は許可される。
文化7年 6人、同8年10人、同9年旧複。
天保2年 人数制限なし、9年25人。
- 3) 外出・門限 宝暦13年 夜5時（午後8時）迄。東門より出入り。
寛政4年 夜4時（午後10時）迄。 出入の際は門札自身持参のこと。
- 4) 書物拝見 宝暦12年 何時でも拝見出来る。
寛政4年 1人前10部宛。
天保6年 冊数制限なし。
- 5) 賄い 朝夕、夜食。

天保7年現在 1ケ年経費見積 1貫249匁4分7厘

天保8年 朝夕1汁1菜に菜1種増、昼・晩にお平。肴は月に6度。

肴の日 毎月 朔・4・9・15・19・24日

8. 文庫・書物

- 1) 蔵書冊数 宝暦13年 凡そ12,000巻程
天保10年 12,733部 32,230冊
御前御預御蔵書 271部 5,049冊
- 2) 蔵書目録作成・点検・曝書
宝暦13年 秋山儀右衛門・藪茂次郎その他・句読師4人、居寮生などが毎日整理し、目録を作成した。
寛政3年 村本顕次が御蔵本目録仕立する。
文政4年 村本亮助が受込を命じられる。
- 3) 書物の補修
天明5年 蔵書修理に張付師1人。
天保4年 欠本、破損書物の写継に、講堂生2人。
- 4) 書物購入費
寛政3年 1ケ年 銀子2貫目宛
文化3年 儉約に付き、一般書買上見合わせ。
- 5) 学生への書物購入斡旋
天保7年 講堂生・句読生に対し、10ケ年賦で購入斡旋。 1人1部。
弘化3年 年賦希望書目について、雑書は不可。

かわぐちやすこ 客員教授

貴重資料展を開催

旧制第五高等学校開校120周年を記念して、10月10日(水)～13日(土)に貴重資料展及び永青文庫セミナー「近代への階梯－熊本教育史の一断面－」を中央館と放送大学熊本学習センターで開催しました。

公開講演会

- 藩校の時代 吉村豊雄文学部教授
- 時習館100年の運営あれこれ 川口恭子客員教授
- 「沖縄風俗絵巻」の世界 小野友道名誉教授

